

鯨ヶ沢町学校施設個別施設計画

令和8年3月

鯨ヶ沢町

目次

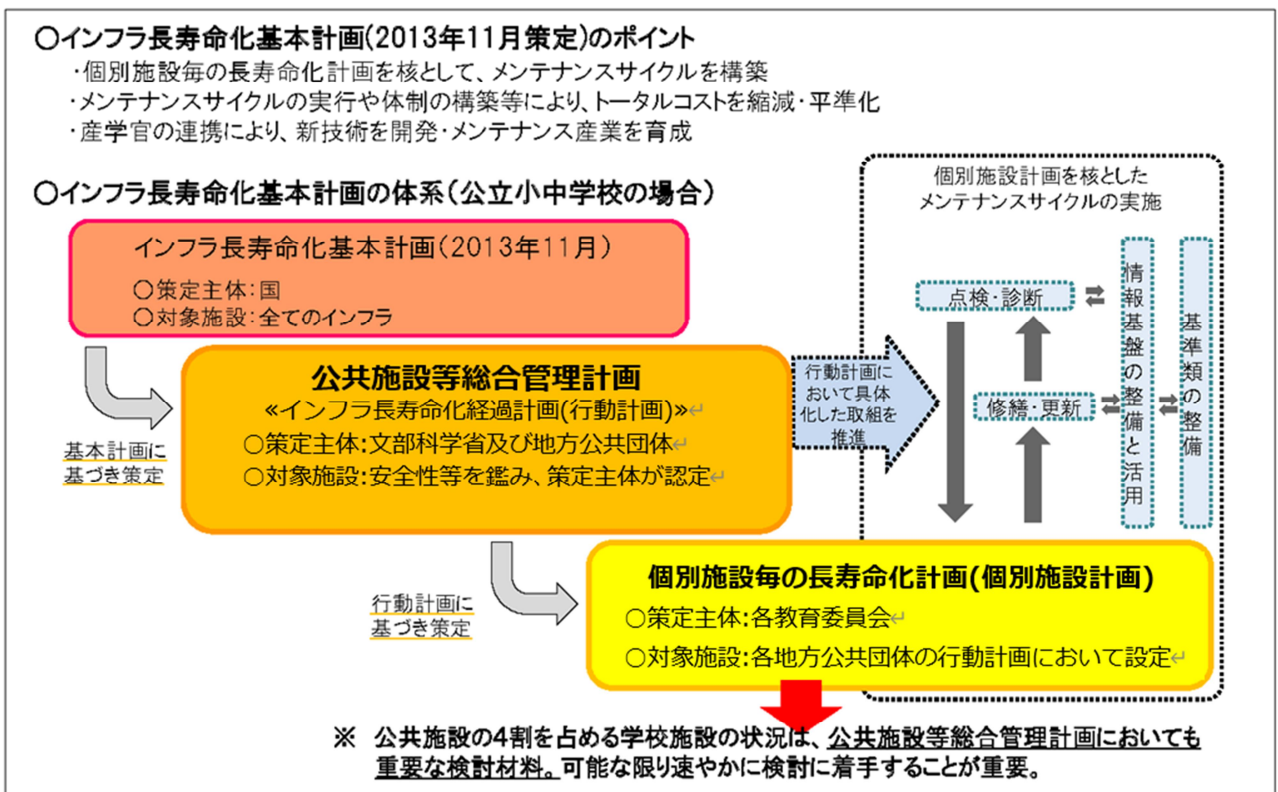
第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等.....	1
1 背景.....	1
2 目的.....	2
3 計画期間.....	3
4 対象施設.....	3
第2章 学校施設のめざすべき姿.....	4
第3章 学校施設の実態.....	7
1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態.....	7
2 学校施設の老朽化状況の実態.....	19
第4章 学校施設整備の基本的な方針等.....	24
1 学校施設の規模・配置計画等の方針.....	24
2 改修等の基本的な方針.....	26
第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等.....	27
1 改修等の整備水準.....	27
2 予防保全および点検・評価の方針.....	28
第6章 長寿命化の実施計画.....	29
1 改修等の優先順位付けと実施計画.....	29
2 今後の課題.....	33
第7章 長寿命化計画の継続的運用方針.....	34

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1 背景

本町では、小学校2校、中学校1校の体制で義務教育に対応してきましたが、厳しい財政状況が続く中、学校施設の老朽化が進んでおり、今後、大規模改修や建替えが集中することが予想されており、町の公共施設等総合管理計画においても持続可能な公共施設・サービスを維持する観点から、施設を維持するための将来費用に対する充当可能財源の不足が懸念されています。

このため、学校施設においても「段階的な集約」や「義務教育学校への再編」などの必要性が示されており、持続可能な学校教育・施設の実現に向けた個別施設計画・長寿命化計画の策定が求められています。



出典：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（2017年3月 文部科学省）

図1 インフラ長寿命化基本計画の体系

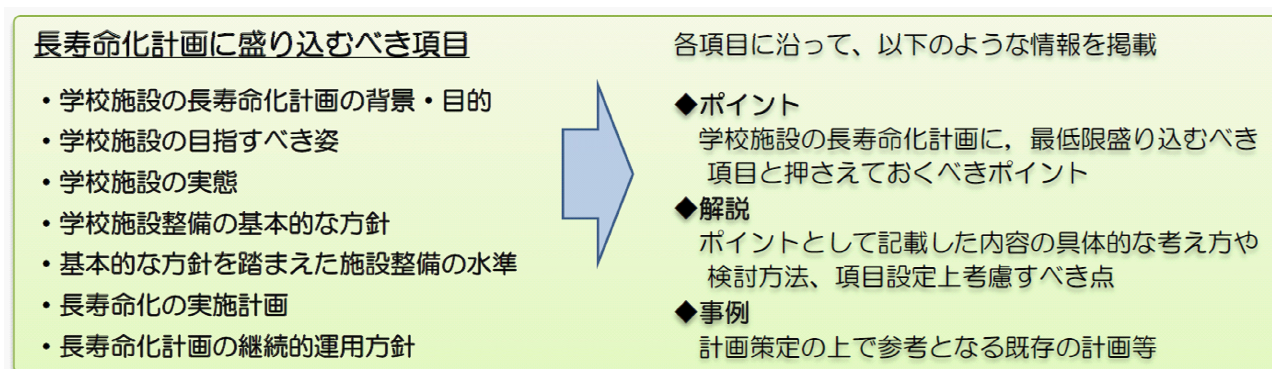
2 目的

本町においては、少子高齢化による児童生徒数の減少は止まらず、児童数の推移は、平成 27（2015）年度の 591 名をピークとし令和 7（2025）年度の児童数は 378 名となっており、教育活動の内容に制限を加えざるを得ない課題が益々顕在化しています。そのため、子どもたちの望ましい教育環境の整備は喫緊の課題となっています。

また、平成 27（2015）年 1 月の文科省の手引き「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」によると、「適正な学校規模は 12～18 学級を有する学校」とされており、町内全ての学校は、学校再編・統合に向けて早期に検討すべき規模となっています。

以上のことから本町の学校施設長寿命化計画は、状況を把握し、長期的な視点をもって、長寿命化や学校再編を計画的に行い、適正な規模及び維持管理を推進する基本的な方向性と取り組みを定めることを目的として策定するものです。

なお、計画策定にあたっては、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き」（平成 27（2015）年 4 月）並びに「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（平成 29 年（2017）年 3 月）に準拠するものとします。



出典：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（2017 年 3 月 文部科学省）

図 2 長寿命化計画に盛り込むべき項目

3 計画期間

本計画の計画期間は令和 8（2026）年度から令和 17（2035）年度までの 10 年間とし、計画期間のうち、概ね 5 年ごとに内容の見直しを行うことを基本とします。

4 対象施設

本計画は教育委員会が所管する学校教育系施設を対象とします。

表 1 対象施設一覧

	名称	住所
1	西海小学校	鱒ヶ沢町大字舞戸町字小夜190
2	舞戸小学校	鱒ヶ沢町大字舞戸町字久富27
3	鱒ヶ沢中学校	鱒ヶ沢町大字赤石町字大和田27
4	学校給食センター	鱒ヶ沢町大字舞戸町字久富27

第2章 学校施設のめざすべき姿

鯉ヶ沢町教育基本方針において、教育関連施設の管理に関する基本方針を以下の通りとしています。



出典：『教育要領』令和7年度<2025年度>鯉ヶ沢町の教育（令和7年 鯉ヶ沢町）

図3 鯉ヶ沢町教育基本方針

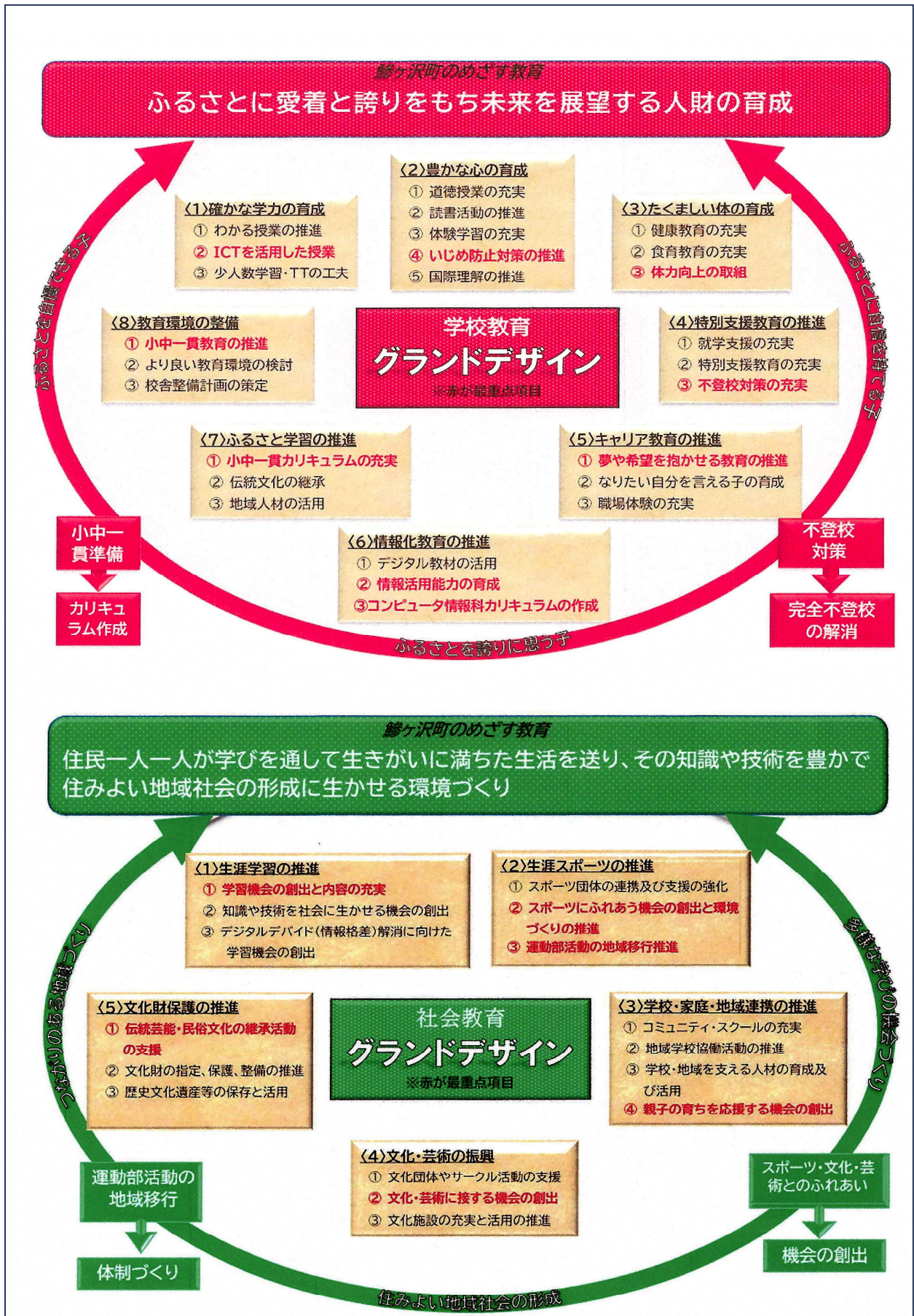


図4 グランドデザイン

基本方針を踏まえつつ、本町の学校施設のめざすべき姿を次のように設定しました。

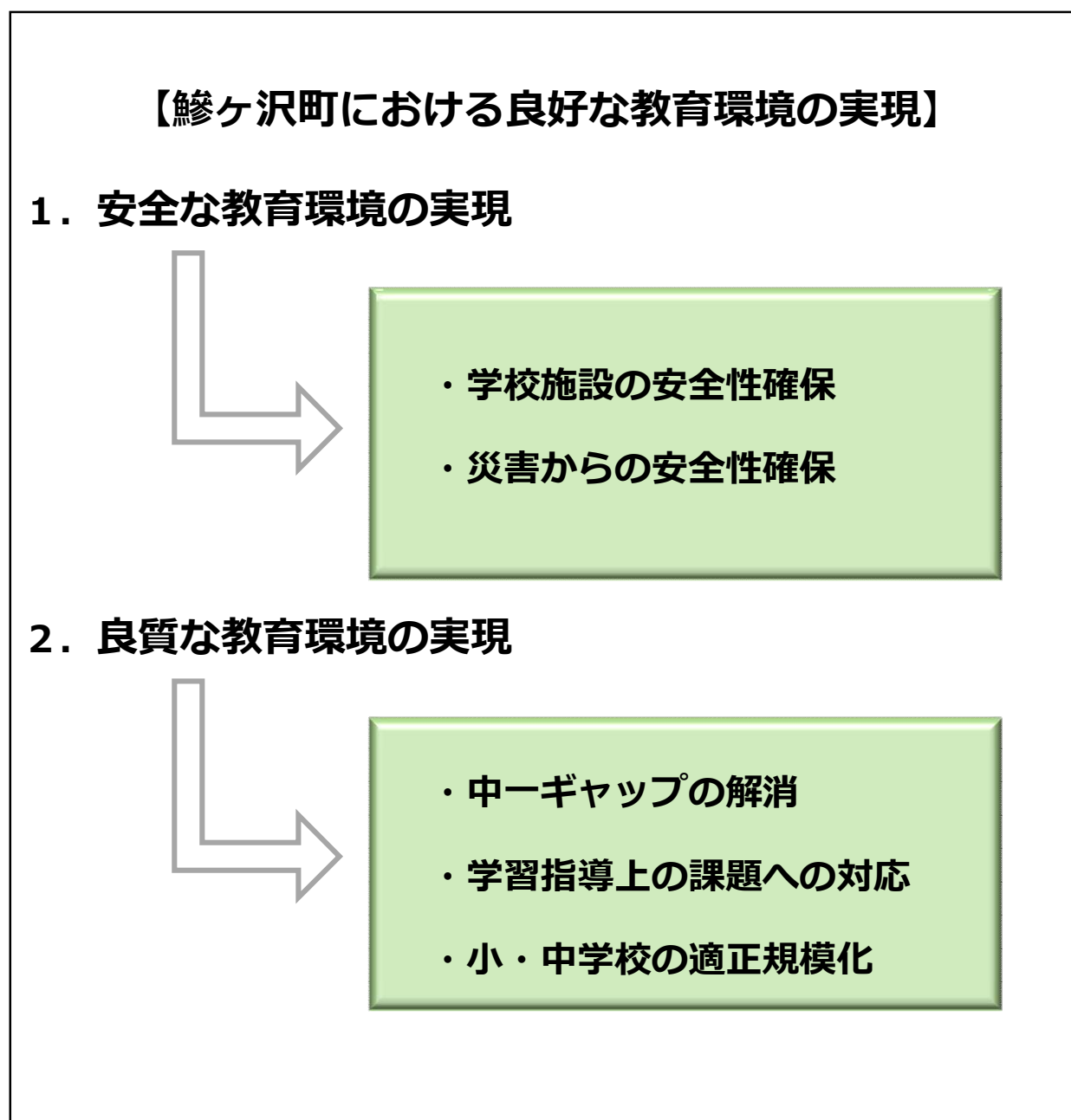


図5 良好な教育環境の実現

第3章 学校施設の実態

1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

1) 対象施設一覧

本計画の対象施設は、以下のとおりです。

表2 対象施設一覧

名称	住所	敷地面積 (㎡) ※1	児童生徒数 (人) ※2	学級数(学級) ※2		
				通常学級	特別支援	
小学校	1 西海小学校	鱒ヶ沢町大字舞戸町字小夜190	12,953	49	5	2
	2 舞戸小学校	鱒ヶ沢町大字舞戸町字久富27	14,816	180	7	2
	小学校 計		27,769	229	12	4
中学校	1 鱒ヶ沢中学校	鱒ヶ沢町大字赤石町字大和田27	26,580	149	6	2
	中学校 計		26,580	149	6	2
合計		54,349	-			

※1 令和5(2023)年度施設台帳より

※2 令和7(2025)年4月1日現在

2) 児童生徒数及び学級数の変化

(1) 小学校

本町には、小学校が2校あり、児童数は令和7（2025）年5月1日現在で229人、通常学級12学級、特別支援学級4学級となっており、少子化・人口減少の影響を受けて児童数は減少傾向にあります。

また、学級数についても横ばい若しくは減少傾向にあり、複式学級も生じています。

表3 年度別児童数・学級数の推移

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
西海小学校	141	134	129	122	115	90	77	72	71	65	49
舞戸小学校	216	222	240	225	214	206	212	199	187	185	180
児童数計	357	356	369	347	329	296	289	271	258	250	229
西海小学校	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7
舞戸小学校	8	9	8	10	10	10	10	9	9	9	9
学級数計	16	17	16	18	18	18	18	16	16	16	16

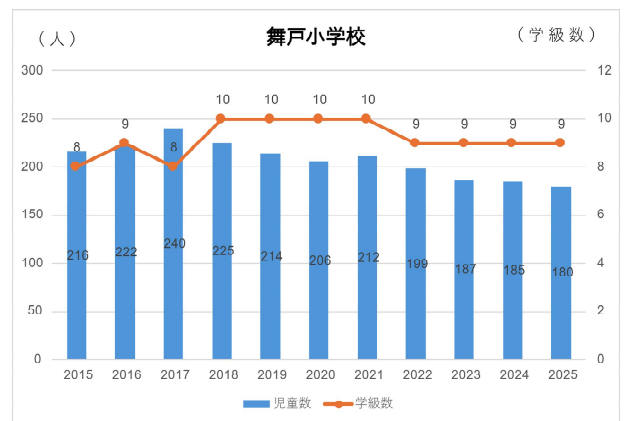
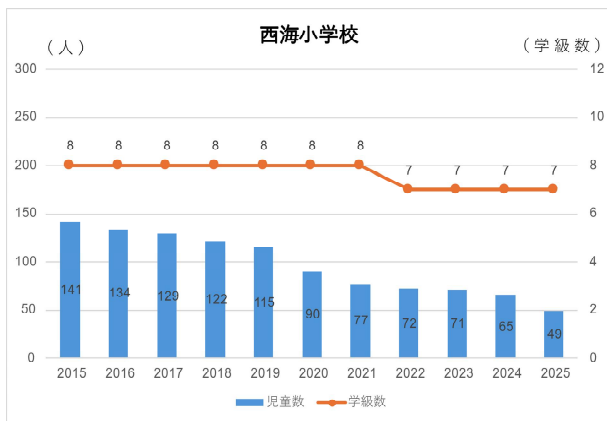


図6 年度別児童数・学級数の推移(小学校)

(2) 中学校

本町には、中学校が1校あり、生徒数は令和7（2025）年5月1日現在で149人、学級数は通常学級6学級、特別支援学級2学級となっており、生徒数・学級数ともに減少傾向にあります。

表4 年度別生徒数・学級数の推移

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
鱒ヶ沢中学校	227	204	190	179	175	181	173	175	177	163	149
児童数計	227	204	190	179	175	181	173	175	177	163	149
鱒ヶ沢中学校	10	8	8	7	6	7	7	8	8	8	8
学級数計	10	8	8	7	6	7	7	8	8	8	8

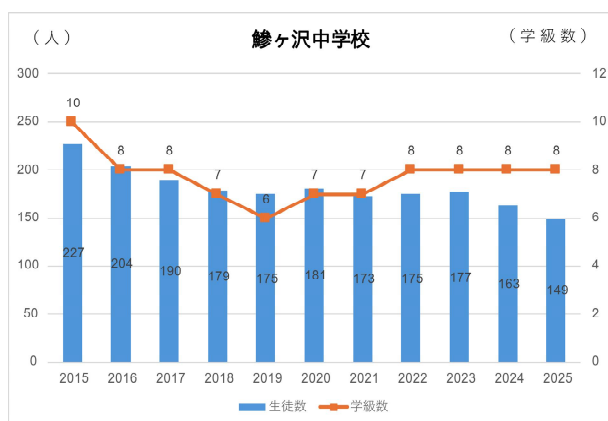


図7 年度別児童数・学級数の推移 (中学校)

(3) 将来推計

児童生徒数の推移を「人口ビジョン（令和2（2020）年3月）」の鱒ヶ沢町全体の将来人口推計の年少人口（0～14歳）をベースにして推計しました。

児童生徒数は令和17（2035）年をピークに、令和27（2045）年には274人（104人減）となる見通しです。

表5 児童生徒数の将来推計

(人)

	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)	2045年 (R27)
総人口	8,202	7,349	6,581	5,717	5,101
年少人口 (0～14歳)	1,321	1,343	1,391	1,186	956
小学校児童数	229	233	241	206	166
中学校生徒数	149	151	157	134	108
児童生徒数	378	384	398	340	274

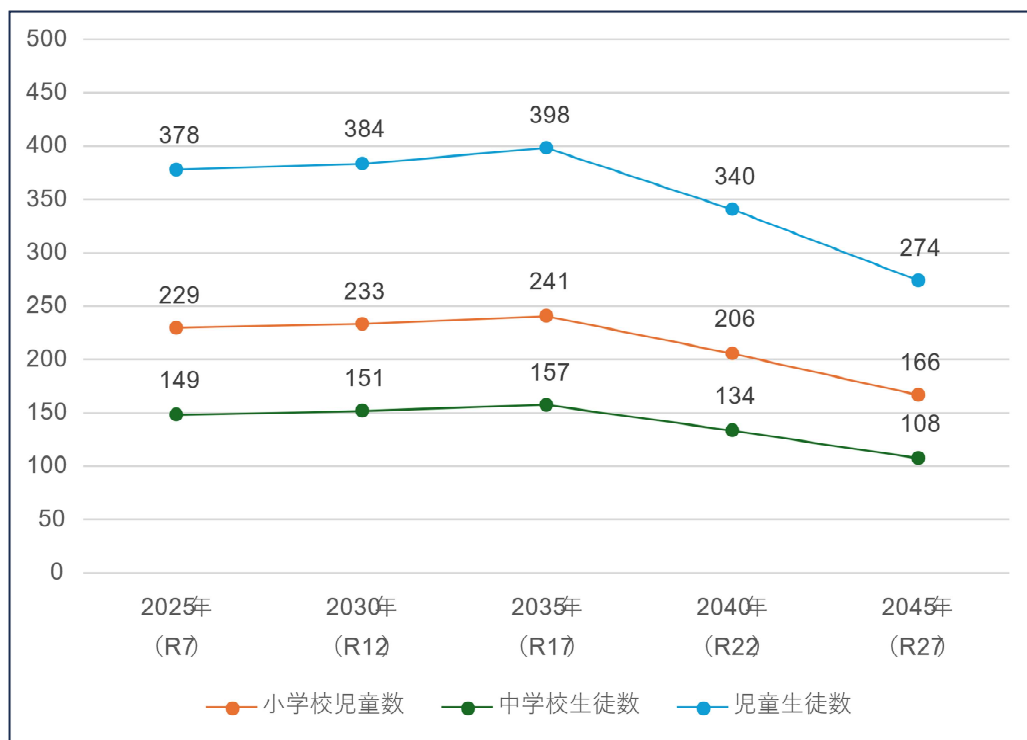
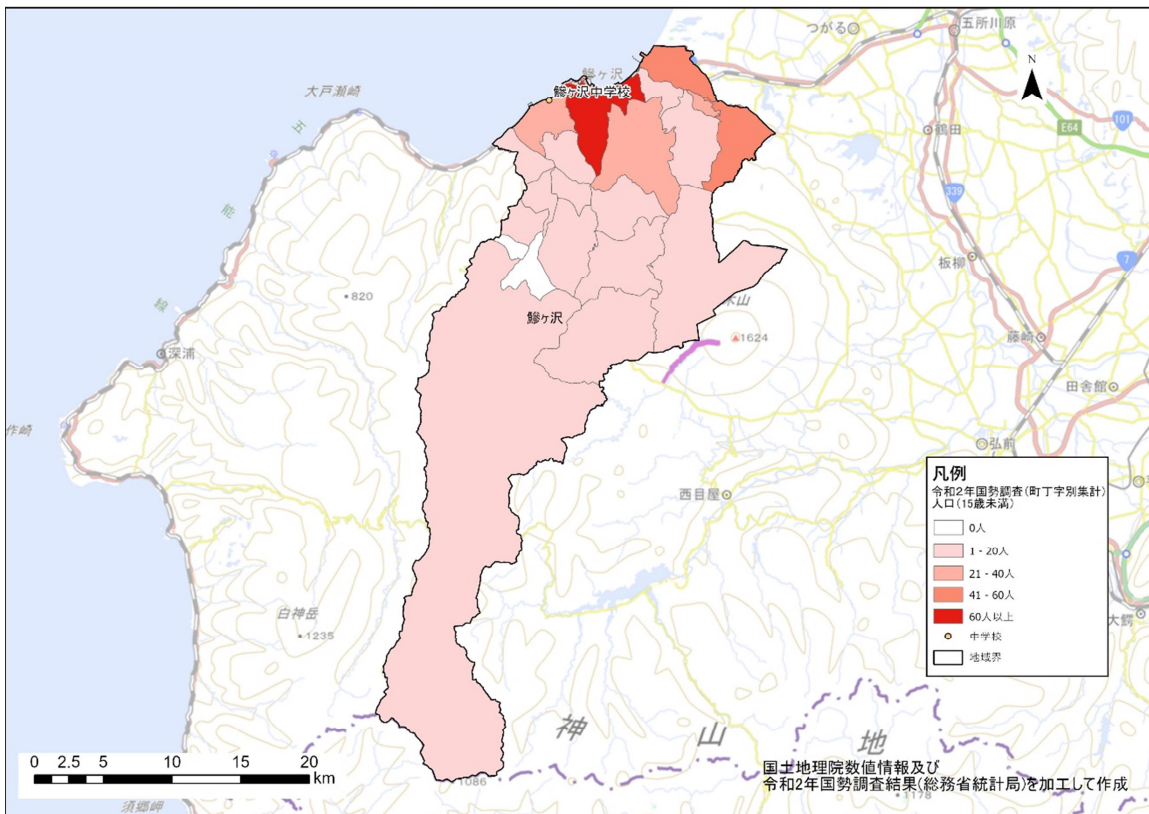
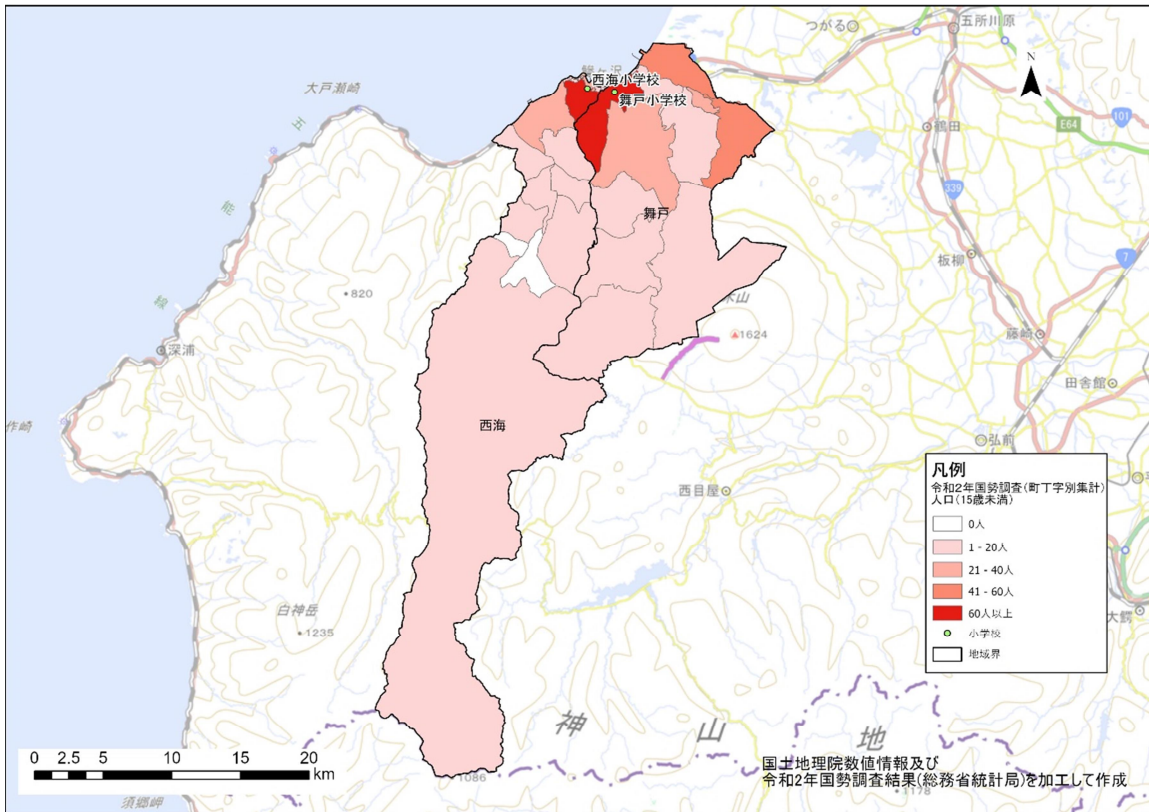


図8 児童生徒数の将来推計

3) 学校施設の状況

(1) 施設の学区状況

本計画で対象としている学校教育系施設の学区状況は以下のとおりです。



4) 災害に対する安全性の状況

(1) 津波浸水想定・土砂災害想定

令和3（2021）年3月に発行された「鱒ヶ沢町防災マップ」によれば、西海小学校・舞戸小学校においては、津波による浸水や土砂災害の危険性は予見されていません。

一方で、鱒ヶ沢中学校については全体が水深2～5mの浸水が想定されるとともに、敷地南側においては土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域が指定されており、災害時の安全性に懸念があることが分かります。

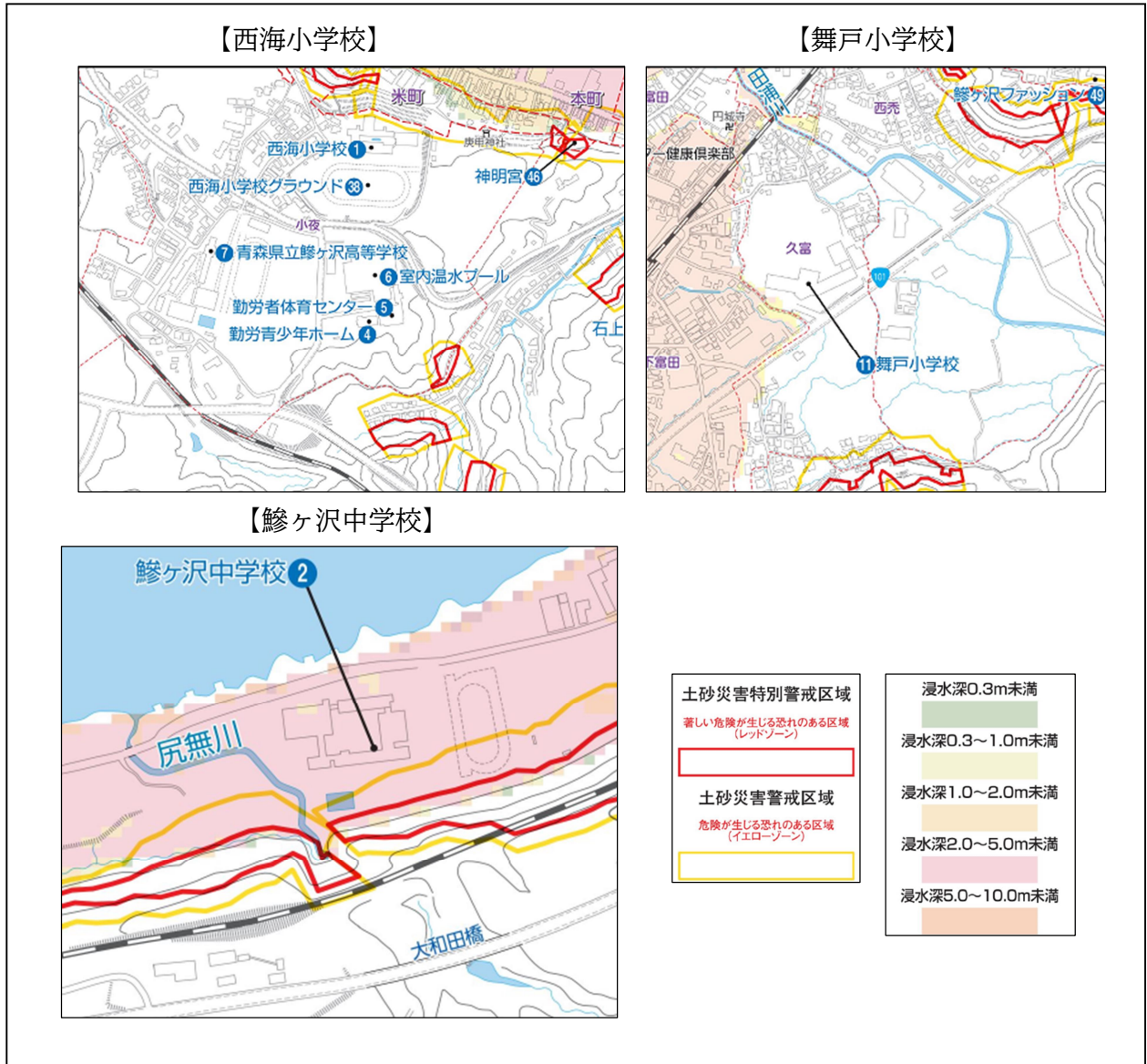


図 11 各施設の災害想定

(2) 岩木山火山防災マップ

令和3（2021）年3月に発行された「鱒ヶ沢町防災マップ」に掲載された「岩木山火山防災マップ」によれば、岩木山の噴火時、雪の多い季節においては舞戸小学校敷地において融雪型火山泥流による被害が想定されています。

西海小学校・鱒ヶ沢中学校における被害発生は想定されていません。



図 12 岩木山火山防災マップ

(3) 施設の総合的安全性

これまでに確認してきた「津波浸水」「土砂災害」「岩木山噴火」のハザードマップを読み解いた結果、西海小学校の安全性が高いことが確認されます。

表 6 施設の安全性

	津波浸水想定	土砂災害想定	岩木山噴火想定
西海小学校	○	○	○
舞戸小学校	○	○	×
鱒ヶ沢中学校	×	×	○

(4) 周辺環境に対する評価

【西海小学校】

西海小学校の付近には青森県立鱒ヶ沢高等学校が立地しており、児童・生徒が義務教育後の進路イメージを描き、目的意識を持った児童・生徒を育む効果が期待されます。

また、町道を一本隔てて鱒ヶ沢町スポーツセンター室内温水プールや鱒ヶ沢勤労者体育センターが立地していることから、学校施設の縮減を図るとともに授業やクラブ活動に有効に活用することが期待されます。

【舞戸小学校】

舞戸小学校は学校給食センターに隣接しており、給食配送の効率性が高いです。

周辺で商業集積が発展しており利便性が高く、比較的人口が密集する地域であることから防犯などの安全性も高いです。

また、町の中心部にも近いことから多様な施設等へのアクセス性が良好であり、将来的な跡地利用の選択肢が多様です。

【鱒ヶ沢中学校】

3校の中で最大の延床および敷地面積を備えており、中学校として必要な施設・設備・環境を備えています。

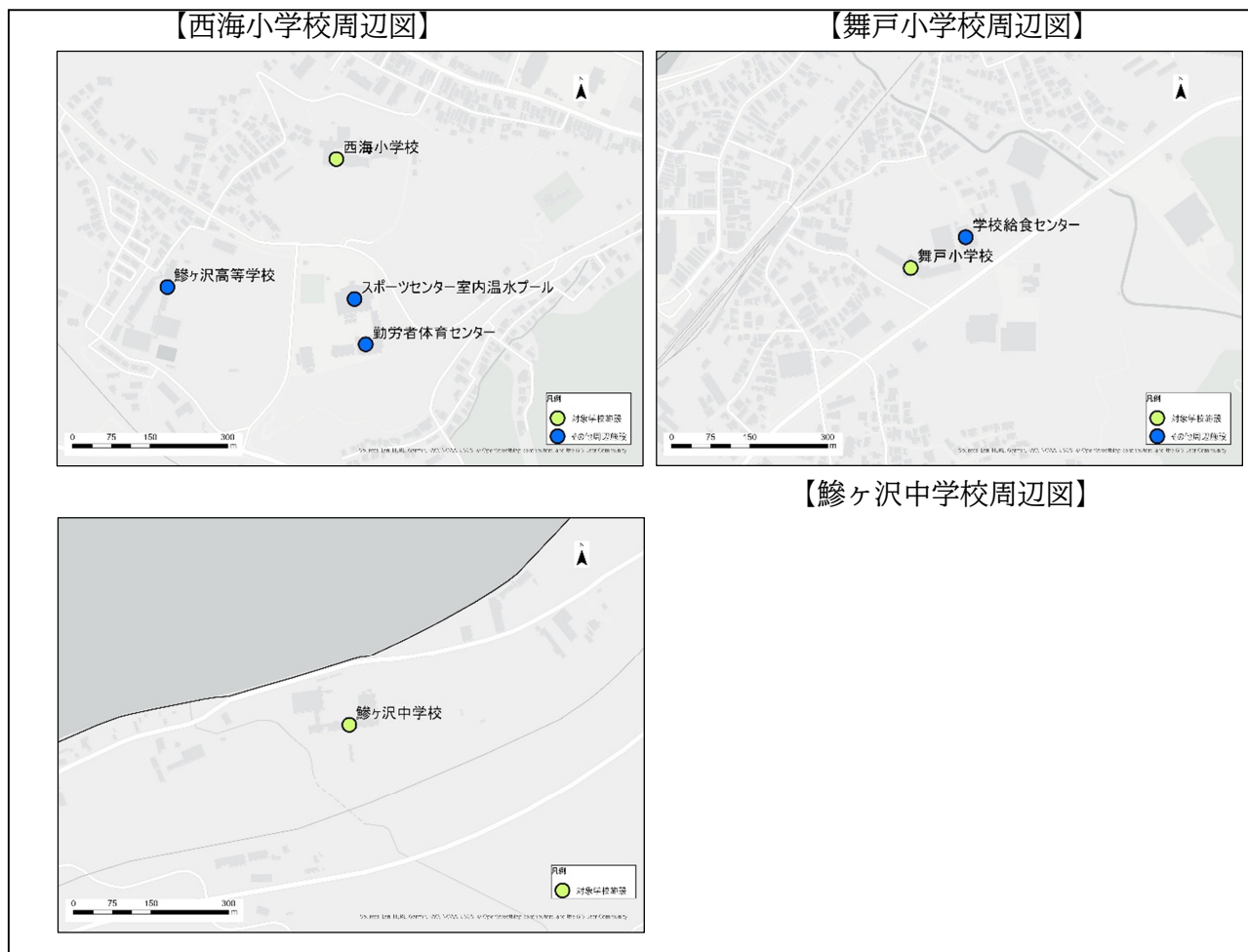


図 13 各施設の周辺環境

5) 施設関連経費の推移

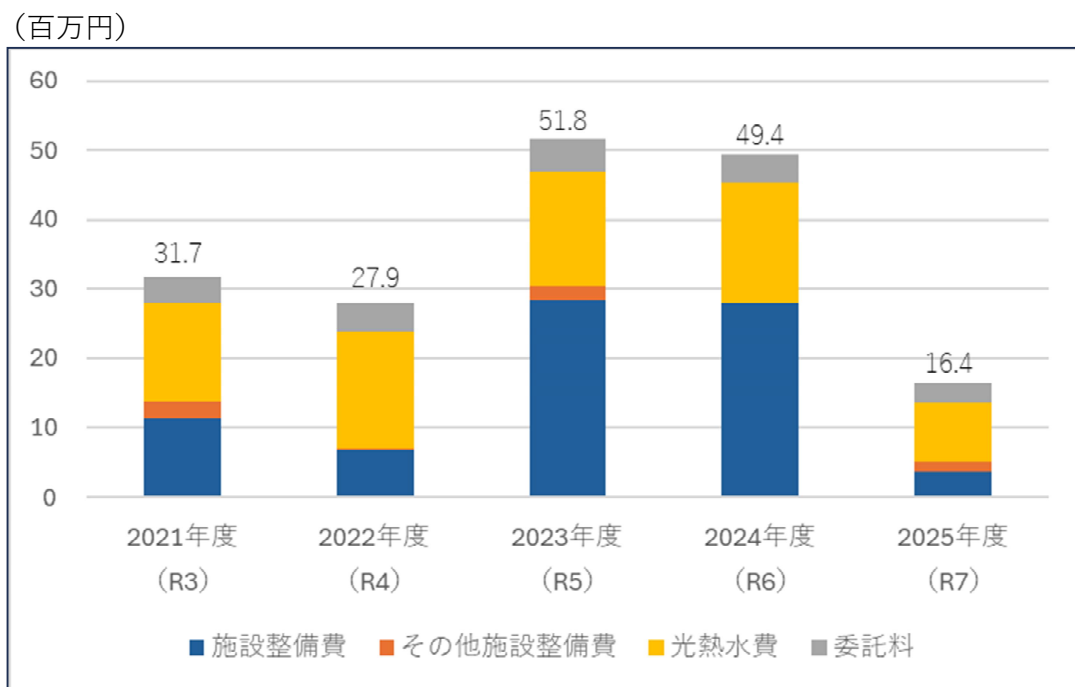
令和3(2021)年度～令和7(2025)年度の5年間の学校施設の施設関連経費は、約16.4～51.8百万円で、5年間の平均は約35.5百万円/年となっています。

表7 過去5年の施設関連経費

(単位：百万円)

	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	年平均 (5ヵ年)
施設整備費	11.3	6.8	28.5	28.0	3.8	15.7
その他施設整備費	2.5	0.2	2.0	0.0	1.4	1.2
光熱水費	14.1	16.8	16.4	17.2	8.3	14.5
委託料	3.8	4.2	4.9	4.1	3.0	4.0
合計	31.7	27.9	51.8	49.4	16.4	35.5

図14 過去5年の施設関連経費



6) 学校施設の建築年度別保有量

対象施設の延床面積を建築年度別にみると、築50年以上の建築物は約33%を占めております。また、旧耐震基準の建築物は約65%を占めております。

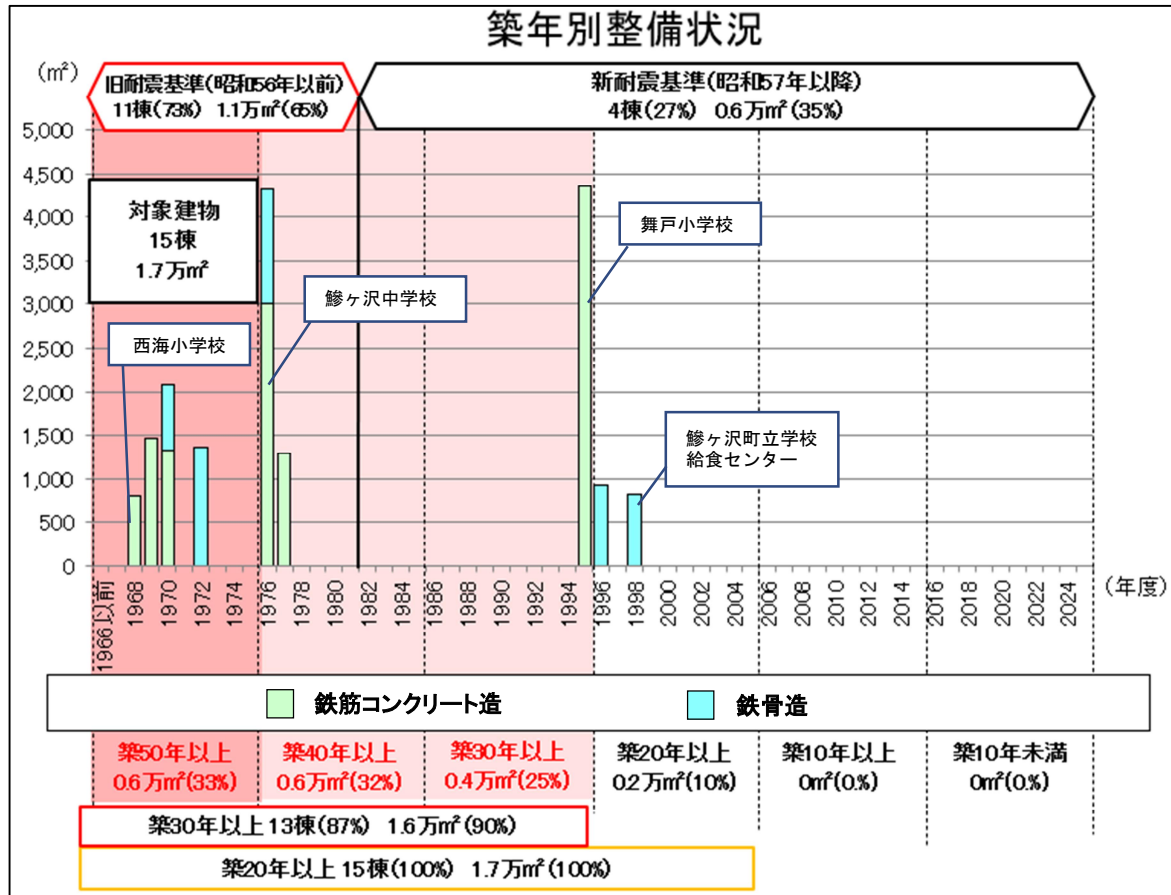


図 15 学校施設の築年別整備状況

7) 今後の維持・改築コスト（従来型）

(1) 試算条件

文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成 29（2017）年 3 月）」では、改築中心で施設を維持した場合、そのサイクルは 40～50 年間とされていることから、50 年を改築周期とし、学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書付属ソフトに準じて、20 年目と 40 年目に大規模改造を行うこととします。

表 8 今後の維持・改築コストの試算条件（従来型）

工種	周期	単価(円/㎡)		
		校舎	体育館	武道館
改築	50 年	400,000*		
大規模改造	20 年	100,000		
	40 年	改築単価 × 25%		

※「令和 8 年度新営予算単価（国土交通省監修）」を用いて改築単価を設定し、これを基に「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」に準じて大規模改造単価を設定した。なお、上記の試算条件には解体費、設計費、施行監理費、消費税は含まない。

(2) 試算結果

老朽化した外装・内装等を改修し、50年程度で改築するという従来型管理を行った場合、今後40年の維持・改築コストの総額は約96.5億円となり、1年あたりの経費は約2.4億円となります。過去5年間の施設関連経費の平均である約0.4億円と比較すると、約6倍のコストがかかる試算結果となります。

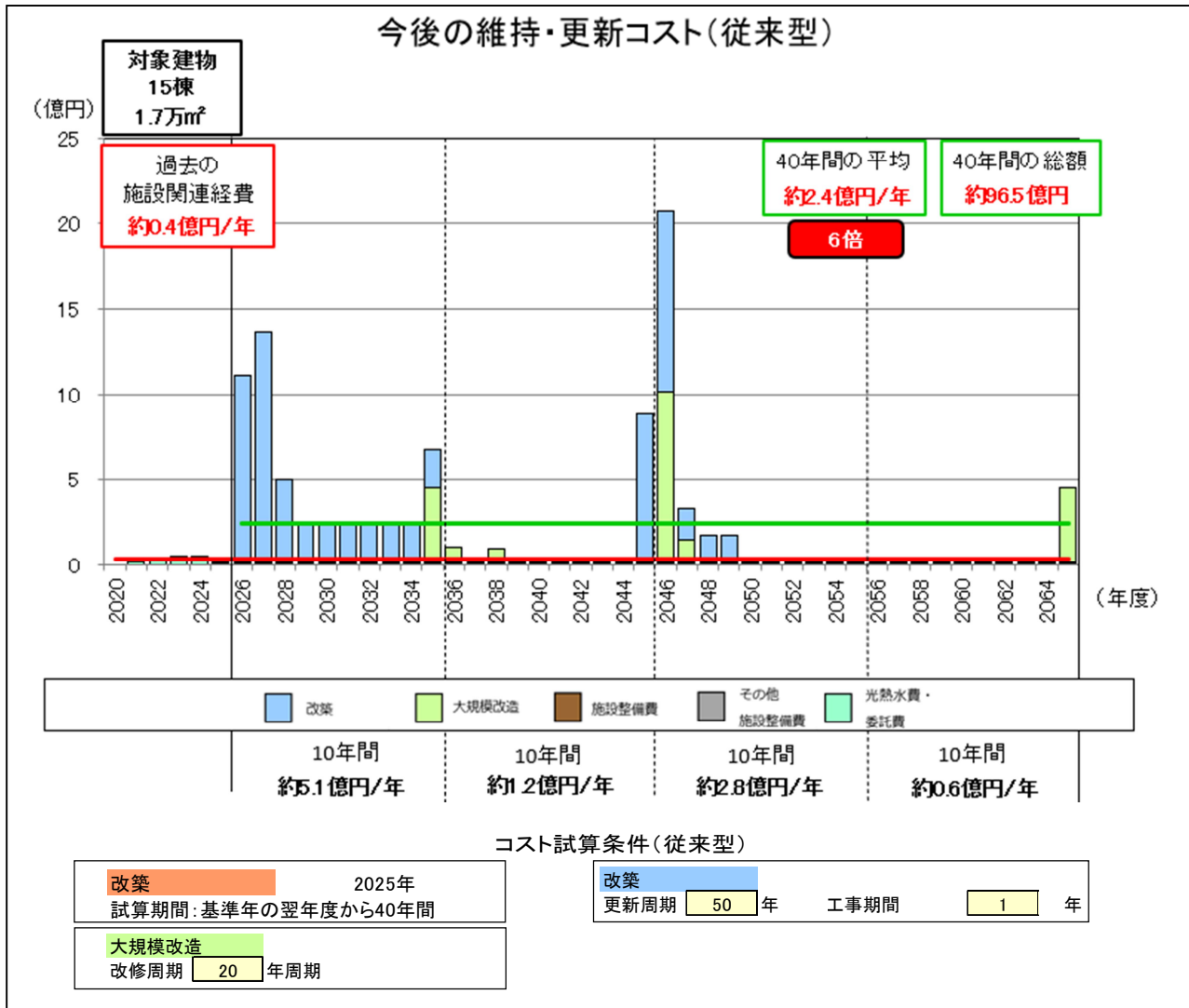
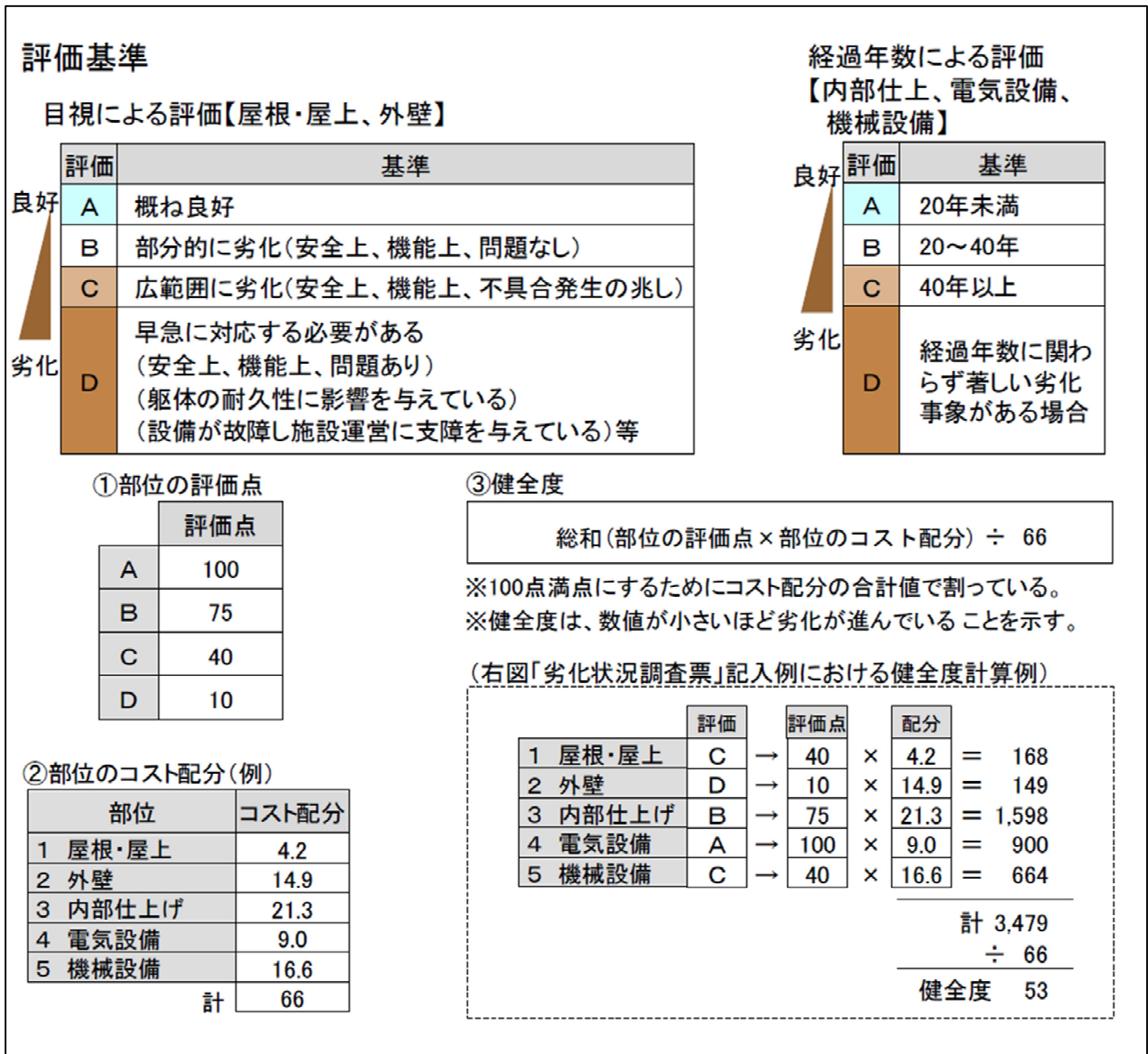


図 16 今後の維持・改築コスト(従来型)

2 学校施設の老朽化状況の実態

1) 構造躯体の健全度評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

本町では構造躯体以外の劣化状況を把握するため、本計画策定に先立ち建築物を5つの部位（屋根・屋上、外壁、内部仕上、電気設備、機械設備）に分類し、建築物現況調査を行いA～Dの4段階で評価しました。この調査結果をもとに一定のルールに基づき、棟ごとの健全度を算出しました。



出典：「学校施設の長寿命化計画の見直しに向けたコスト試算等に係る解説書」（2023年3月 文部科学省）

図 17 評価基準と健全度の算定

(1) 構造躯体の健全性

構造躯体の健全性は、建物の建築年度から耐震安全性を把握し、構造躯体の健全性について判定します。本町の小学校、中学校について構造躯体の健全性は耐震安全性の状況から概ね良好とみられます。なお、対象施設のうち西海小学校、舞戸小学校、鯉ヶ沢中学校について簡易コンクリート調査を実施し評価の補完を行いました。

表9 構造躯体の健全性

■ : 築50年以上 □ : 築30年以上

建物基本情報											構造躯体の健全性						
施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		
				学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/mm ²)	試算上の区分
西海小学校	校舎教室棟	1	1	小学校	校舎	RC	3	801.0	1968	S43	57	旧	済	済	R7	-	長寿命
西海小学校	校舎管理教室棟	2	1	小学校	校舎	RC		1460.0	1969	S44	56	旧	済	済	R7	26.3	長寿命
西海小学校	校舎教室棟	3	1	小学校	校舎	RC		1330.0	1970	S45	55	旧	済	済	R7	21.8	長寿命
西海小学校	体育館	4	1	小学校	屋内運動場	S		743.0	1970	S45	55	旧	済	済	R7	-	長寿命
舞戸小学校	校舎町道側	1	1	小学校	校舎	RC		2615.0	1995	H7	30	新	-	-	R7	64.4	長寿命
舞戸小学校	校舎バイパス側	2	1	小学校	校舎	RC		1740.0	1995	H7	30	新	-	-	R7	40.0	長寿命
舞戸小学校	体育館	3	1	小学校	屋内運動場	S		929.0	1996	H8	29	新	-	-	R7	-	長寿命
鯉ヶ沢中学校	校舎北棟	1	1	中学校	校舎	RC		1738.0	1976	S51	49	旧	済	済	R7	25.6	長寿命
鯉ヶ沢中学校	校舎中央棟	2	1	中学校	校舎	RC		849.0	1976	S51	49	旧	済	済	R7	-	長寿命
鯉ヶ沢中学校	校舎南棟	3	1	中学校	校舎	RC		1123.0	1977	S52	48	旧	済	未	R7	-	長寿命
鯉ヶ沢中学校	校舎南棟	4	1	中学校	校舎	RC		414.0	1976	S51	49	旧	済	未	R7	-	長寿命
鯉ヶ沢中学校	校舎技術棟	5	1	中学校	校舎	RC		171.0	1977	S52	48	旧	済	未	R7	-	長寿命
鯉ヶ沢中学校	体育館	6	1	中学校	屋内運動場	S		1316.0	1976	S51	49	旧	済	済	R7	-	長寿命
鯉ヶ沢中学校	体育館	7	1	中学校	屋内運動場	S		1371.0	1972	S47	53	旧	済	未	R7	-	長寿命
鯉ヶ沢町立学校給食センター	学校給食センター	8	1	給食センター	給食センター	S		815.0	1998	H10	27	新	-	-	R7	-	長寿命

※昭和 56 (1981) 年 6 月に建築基準法が改正されています。昭和 56 (1981) 年度以前に建築された建物を「旧耐震基準」、昭和 57 (1982) 年度以降に建築された建物を「新耐震基準」としています。

(2) 構造躯体以外の健全性

構造躯体以外の健全性は、建築基準法 12 条点検結果を参考に、老朽化状況を評価し健全性の算出を行います。この健全性を用い、優先的に改修等の優先順位等へ活用します。

本町には町立小学校が 2 校あり、建築物は 7 施設あります。この 7 施設中、西海小学校の 4 施設が築 50 年以上経過しています。劣化状況評価では 40 点から 75 点で健全度の平均点は 55 点となります。各学校で屋根・屋上、外壁で広範囲な劣化が見られ、機能低下の兆しがみられます。

また、本町には町立中学校が 1 校あり、建築物は 7 施設あります。この 7 施設全てが築 48 年以上が経過しています。劣化状況評価では全て 40 点のため健全度の平均点も 40 点となります。各学校で随所、広範囲な劣化が見られ、機能低下の兆しがみられます。

鯉ヶ沢町立学校給食センターは築 27 年経過しており、劣化状況評価では 75 点となりました。

表 10 構造躯体以外の健全性

建物基本情報												劣化状況評価					
施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
				学校種別	建物用途				西暦	和暦							
西海小学校	校舎教室棟	1	1	小学校	校舎	RC	3	801.0	1968	S43	57	C	C	C	C	C	40
西海小学校	校舎管理教室棟	2	1	小学校	校舎	RC		1460.0	1969	S44	56	C	C-	C	C	C	40
西海小学校	校舎教室棟	3	1	小学校	校舎	RC		1330.0	1970	S45	55	C	C	C	C	C	40
西海小学校	体育館	4	1	小学校	屋内運動場	S		743.0	1970	S45	55	C	C-	C	C	C	40
舞戸小学校	校舎町道側	1	1	小学校	校舎	RC		2615.0	1995	H7	30	B	B-	B-	B	B-	75
舞戸小学校	校舎バイパス側	2	1	小学校	校舎	RC		1740.0	1995	H7	30	B	B-	B-	B	B	75
舞戸小学校	体育館	3	1	小学校	屋内運動場	S		929.0	1996	H8	29	B	B	B-	B	B	75
鯉ヶ沢中学校	校舎北棟	1	1	中学校	校舎	RC		1738.0	1976	S51	49	C	C-	C-	C	C	40
鯉ヶ沢中学校	校舎中央棟	2	1	中学校	校舎	RC		849.0	1976	S51	49	C	C	C-	C	C-	40
鯉ヶ沢中学校	校舎南棟	3	1	中学校	校舎	RC		1123.0	1977	S52	48	C	C-	C-	C	C	40
鯉ヶ沢中学校	校舎南棟	4	1	中学校	校舎	RC		414.0	1976	S51	49	C	C	C-	C	C	40
鯉ヶ沢中学校	校舎技術棟	5	1	中学校	校舎	RC		171.0	1977	S52	48	C	C	C-	C	C	40
鯉ヶ沢中学校	体育館	6	1	中学校	屋内運動場	S		1316.0	1976	S51	49	C	C-	C-	C	C	40
鯉ヶ沢中学校	体育館	7	1	中学校	屋内運動場	S		1371.0	1972	S47	53	C	C	C	C	C	40
鯉ヶ沢町立学校給食センター	学校給食センター	8	1	給食センター	給食センター	S		815.0	1998	H10	27	B	B	B	B	B	75

- A 概ね良好
- B 局所、部分的に劣化が見られ、安全上、機能上、問題なし
- C 随所、広範囲に劣化が見られ、安全上、機能上、低下の兆しがみられる
- D 劣化の程度が大きく、安全上、機能上に問題があり、早急に対応する必要がある

■ :築50年以上 □ :築30年以上

2) 今後の維持・改築コスト（長寿命化型）

改築中心の「従来型管理」では、過去5年間の施設関連経費の平均額の約6倍の費用が必要なことが試算されました。

そこで、改築や大規模改造に加え、計画的な長寿命化改修の実施により、建物の性能や機能を向上させることにより長寿命化を図る、「長寿命化型管理」を行った場合の今後40年間の維持・改築コストを試算します。

(1) 試算条件

本町では、これまでも学校施設を良好な状態で維持するための対策をとってきており、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成29（2017）年3月）」でも、「鉄筋コンクリート造の学校施設の法定耐用年数は、47年となっていますが、これは税務上、減価償却を算定するためのものです。物理的な耐用年数はこれより長く、適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70年～80年程度、さらに、技術的には100年以上持たせるような長寿命化が可能である。」とされていることから、80年を改築周期とし、40年目に長寿命化改修を、20年目と60年目に大規模改造を行うこととします。

また、長寿命化を図ることにより、かえって財政負担が増加する場合には長寿命化改修の実施の有無について検討します。

表11 今後の維持・改築コストの試算条件（長寿命化型）

工種	周期	単価(円/㎡)		
		校舎	体育館	武道館
改築	80年	400,000※		
長寿命化改修	40年	240,000 改築単価×60%		
大規模改造	20年	100,000 改築単価×25%		
部位修繕	D評価	5年以内	建物用途、部位に応じて、改築単価に対する割合を設定 (詳細は、表12参照)	
	C評価	10年以内		

※「令和8年度新営予算単価（国土交通省監修）」を用いて改築単価を設定し、これを基に「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」に準じて大規模改造単価を設定した。なお、上記の試算条件には解体費、設計費、施行監理費、消費税は含まない。

表12 部位修繕費費用単価設定

建物用途	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎	改築単価×	改築単価×	改築単価×	改築単価×	改築単価×
体育館	4.2%	14.9%	21.3%	9.0%	16.6%

(2) 試算結果

試算条件に従い、適切な時期に長寿命化対策や予防改修を実施し、目標耐用年数を80年とした長寿命型管理を行った場合の、今後40年間の維持・改築コストは総額99.0億円（1年あたり2.5億円）で、従来型管理を行った場合と比較して、今後の維持・更新コストは約0.1億円/年の増加となることが算出されました。

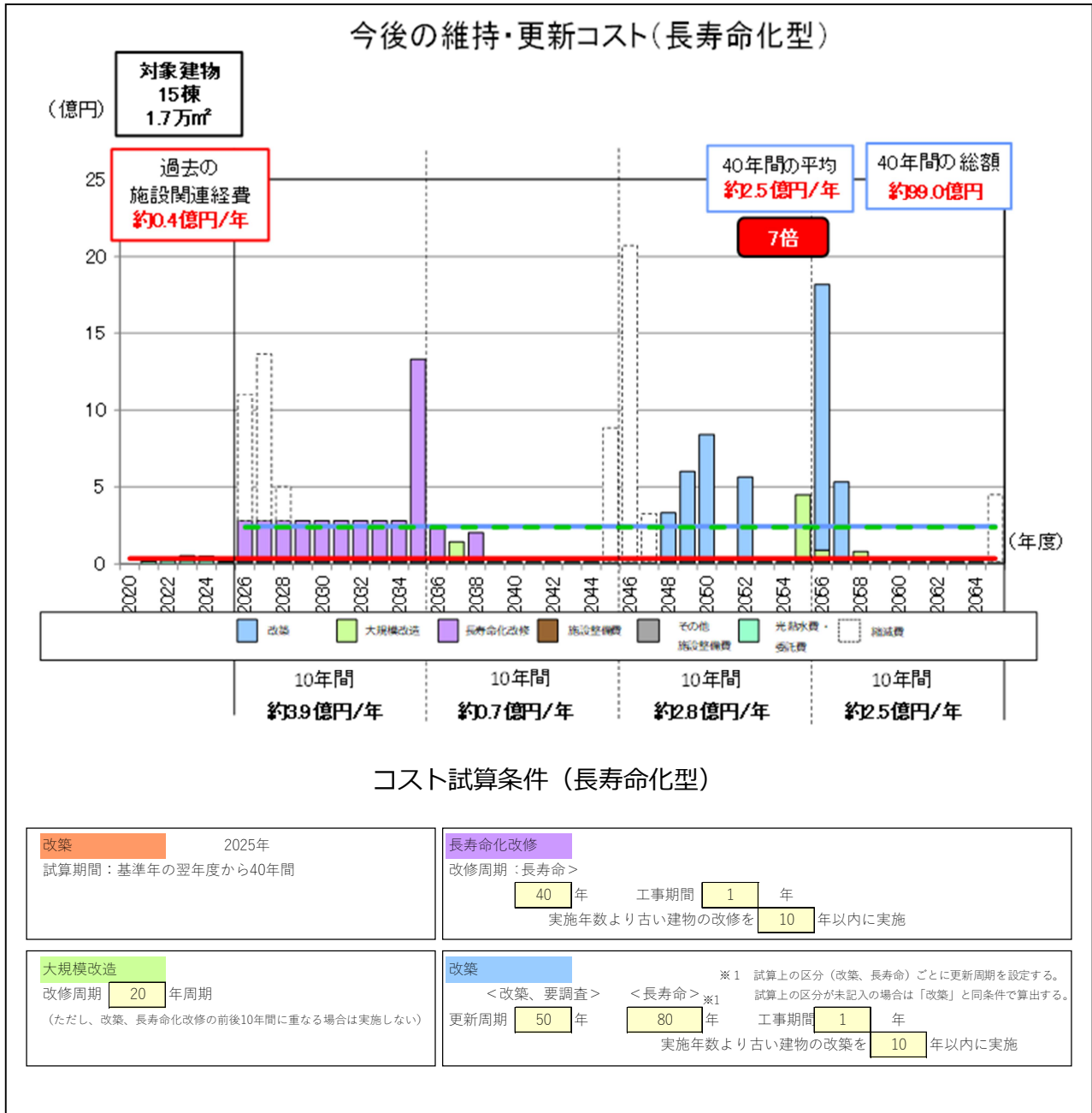


図 18 今後の維持・改築コスト (長寿命化型)

第4章 学校施設整備の基本的な方針等

1 学校施設の規模・配置計画等の方針

1) 学校教育系施設の長寿命化計画の基本方針

本町の公共施設等総合管理計画では、施設類型ごとの管理に関する基本方針を以下の通り定めています。

総合管理計画における学校教育系施設の基本的な方針	
【学校教育系施設】	
① 現状と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 学校教育系施設は建物全体のうち建物棟数 11.5%、延床面積 16.6%。・ 築 30 年以上が経過した施設の延床面積は 61.6%を占めている。・ 児童生徒の減少が進んでいるとともに、学校施設の老朽化が進んでおり、それぞれの施設は現在の児童・生徒数に照らすと過大な規模となっていることが想定され、現在の規模のまま大規模修繕工事を実施することが、過大な投資となることも懸念されている。・ 段階的な集約も検討しつつ、最終的には全町の義務教育を担う「義務教育学校」への再編成を検討する必要があります。この際に、学校の統廃合にあたっては、児童生徒はもとより、保護者、地域住民の理解が求められることから、住民を含めた「将来のあるべき学校環境について」の検討会議を設けて、「今後の少子化の見通し」や「適正な学級規模・学校規模」、「立地」、「通学支援のあり方」等についての検討を通じて、将来的な義務教育学校化へのコンセンサスを形成することが求められます。
② 町の基本方針	
1) 公共施設の建替え等の更新への対応	<ul style="list-style-type: none">・ 本町では、これまで昭和 40 年代前後の高度経済成長期と平成の景気拡大に伴い、多くの公共施設が整備されてきました。 将来において、これらの公共施設の耐用年数が経過した施設や、既に更新時期を経過した施設の改修費用は、今後 10 年目以降で増大することが見込まれます。・ 従来と同様に大規模改修・建替え等への投資を継続すると、町の財政、行政サービス（機能維持）に大きな影響を及ぼす可能性があります。また、大規模改修・建替え等の費用が多くなる年が突出してあるため、年度毎の支出にバラツキが生じてきます。・ そのため、「統合インフラマネジメント基本計画」の方針に則して、大規模改修・建替え等に係る費用を全体的に抑える必要があり、中長期的な視点による計画的・戦略的な公共施設の再編成や、長寿命化などの適切な維持管理を取り組む必要があります。

2) 人口減少・少子高齢化社会への対応

- 本町の人口は、平成 22（2010）年に約 1.2 万人（国勢調査）を下回り、平成 27（2015）年には約 1.0 万人に減少しています。令和 27（2045）年における人口は 5,101 人（人口ビジョン）と推計されています。
- 人口構成比は、令和 2（2020）年の高齢人口率（65 歳以上）は 40.1%と年々増加傾向、年少人口率（15 歳以下）は 9.6%と減少傾向にあります。今後も少子高齢化の進展に伴いその比率が拡大することが予想されます。
- 人口構成の大きな転換に伴う町民のニーズへの変化に対応した適正な公共施設の機能の再編成などの公共施設あり方について、検討していく必要があります。

3) 財政状況への対応

- 公共施設等の維持補修費の見込みは、現在、年間平均約 16.9 億円の実績に対し、従来型の推計結果では今後 40 年間で年平均約 37.3 億円の約 2.2 倍の費用が必要になる見込みであり、将来の公共施設の適切な機能の維持を図っていくため、「統合インフラマネジメント基本計画」の方針に則して施設の維持・運営に係る費用の縮減を図る必要があります。
- 将来の町税収入等の財源の減少が予想され、また、少子高齢化の進展に伴う扶助費等の負担の増加が見込まれることから、公共施設の維持管理のための財源確保は、今後益々厳しくなるものと予測されます。
- 町民との協働も視野に入れながら、施設の再編や長寿命化などの適切な維持管理、民間企業との連携や事業の効率化に取り組む必要があります。

出典：「鱈ヶ沢町公共施設等総合管理計画」（令和 4 年 3 月 鱈ヶ沢町）

上記を踏まえ、学校施設の長寿命化や維持・管理に関する基本方針を次の通り定めます。

予防保全による施設の長寿命化の推進

- 今後とも保持していく必要がある施設については、定期的な点検や修繕による予防保全に努めるとともに、計画的な機能改善による施設の長寿命化を推進します。
- 文部科学省の「インフラ長寿命化計画（行動計画）」（平成27（2015）年3月）や「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き」（平成27（2015）年4月）を踏まえ、長寿命化に取り組めます。

2 改修等の基本的な方針

1) 長寿命化の方針

長年にわたる建築物のライフサイクルコストの縮減を実現するため、大規模改造や長寿命化改修を実施することにより、すべての建築物の目標耐用年数を 80 年とします。

また、長寿命化を図ることにより、かえって財政負担が増加する場合には長寿命化改修の実施の有無や統廃合等を検討します。

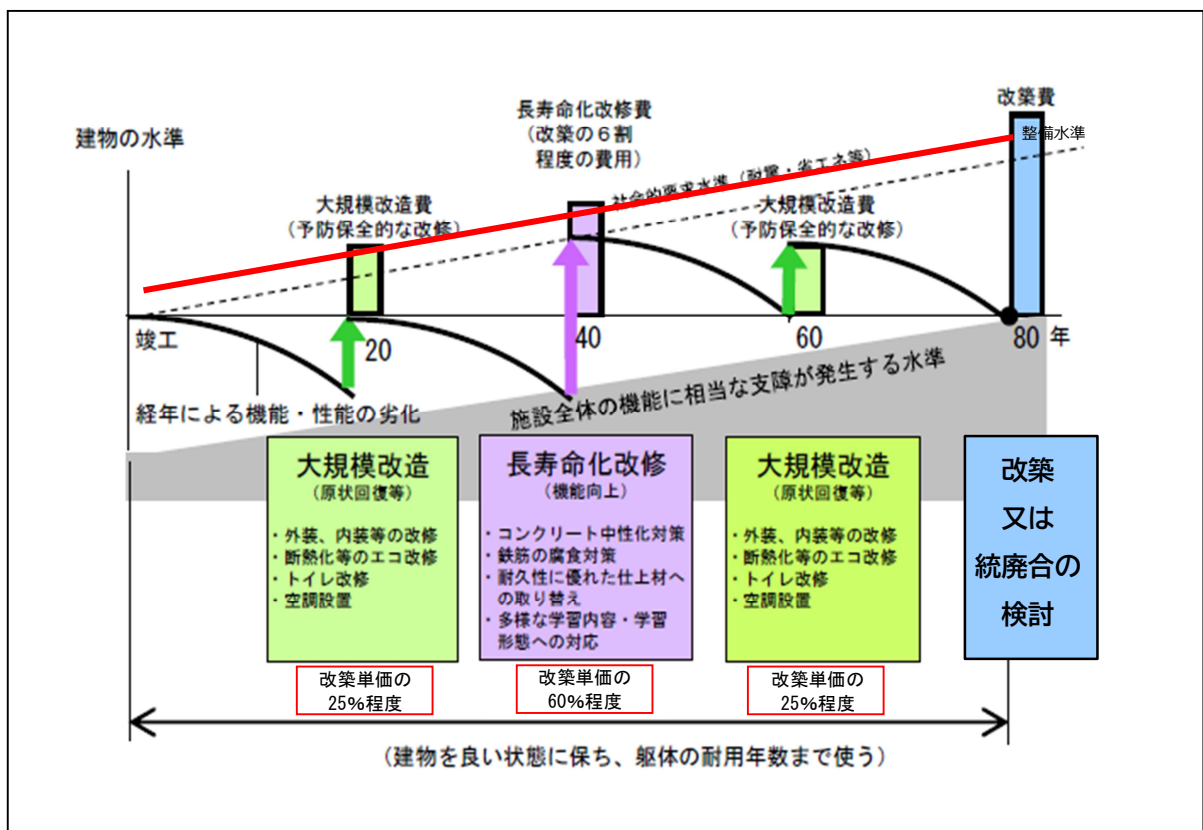
2) 改築、長寿命化改修、大規模改造の周期の設定

長寿命化する場合の改築、改修周期の設定はこれまで整理した方針等に従い、建築後 80 年まで使用することを目標として、長寿命化改修を建築後 40 年目、大規模改造を建築後 20 年目と 60 年目に実施することを基本とします。ただし、大規模改造の実施年が長寿命化改修や改築の前後 10 年間に重なる場合は実施しません。

第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

1 改修等の整備水準

本町の対象施設における施設整備の水準は、今ある施設を長期間使うことを推進し、竣工時に回復するとともに、各部位の費用対効果を考慮した最適な仕様を設定します。また、社会的な要請に合わせた機能の高まりへ対応した維持・更新に努めます。



出典：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（2017年3月 文部科学省）

図19 改築中心から長寿命化への転換のイメージ

表 13 対象設備及び主な工事内容の例

部位区分	設備区分	大規模改造	長寿命化	主な工事内容
		対象	対象	
建築	構造躯体(RC造・S造)	—	★	中性化対策
	屋根	★	★	葺替、シート張替
	外部(外壁)	★	★	塗装または張替
	建具	—	★	交換
	内部仕上げ(床)	★	★	張替
	内部仕上げ(壁)	★	★	張替
	内部仕上げ(天井)	★	★	張替
電気	受変電(電気配線)	—	★	機器交換
	発電・静止形電源	—	★	機器交換
	電力	—	★	一式交換
	中央監視	—	★	機器交換
	通信・情報	—	★	機器交換
機械	空調	★	★	機器交換
	換気	—	★	一式交換
	自動制御	—	★	一式交換
	給排水衛生(給排水管)	—	★	一式交換
	消火	★	★	一式交換
	昇降機その他	—	★	機器交換
社会的要請		★	★	

※ ★…対象とする —…対象としない

2 予防保全および点検・評価の方針

施設を長期的に使用するためには、劣化・破損等の不具合が生じた際に修繕等を行う「事後保全」だけでなく、不具合や故障が生じる前に予防的な修繕等を実施し、機能の保持を図る「予防保全」が重要です。「予防保全」は、施設機能が突発的に停止するリスクを低減させるほか、改修等に係る費用を計画的に実施することで、中長期的なトータルコストを下げることに繋がります。

また、「予防保全」を効率的・効果的に実施するため、躯体以外の劣化状況の点検・評価を実施します。点検については、有資格者等による専門的な点検を定期的実施するものとします。評価については、点検の結果を劣化状況調査票に反映するものとし、「予防保全」に役立てるものとします。

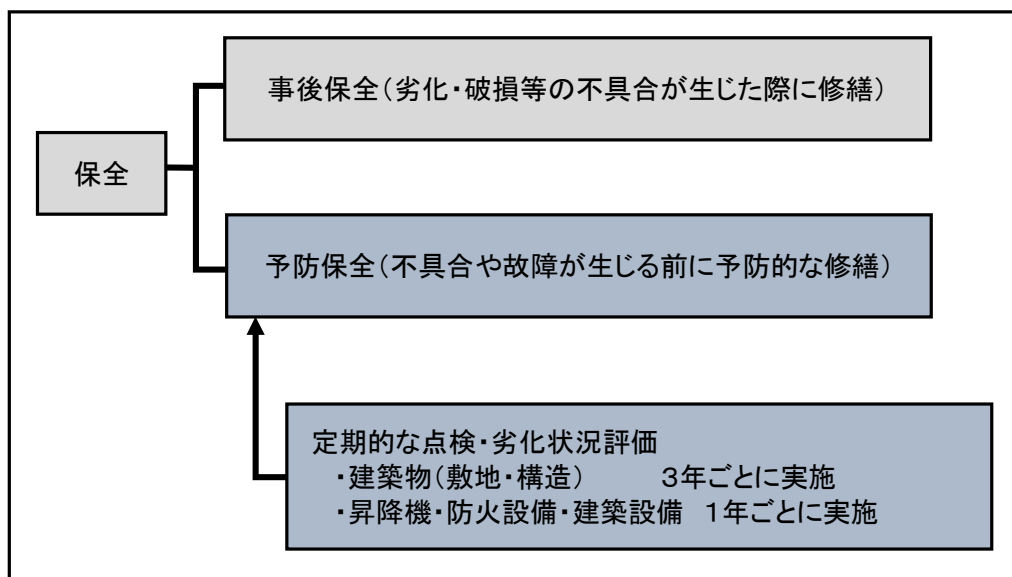


図 20 事後保全と予防保全について

第6章 長寿命化の実施計画

1 改修等の優先順位付けと実施計画

1) 優先順位の設定

近年、少子化の傾向を受けて、児童生徒数が減少している一方で、学校施設の老朽化も進んでいます。さらに、鱈ヶ沢中学校についてはハザードマップ上で危険区域に位置しており、安全性の確保が重要となっています。

こうした状況を踏まえ町では、令和4年度の総合教育会議に「学校施設の今後の在り方」について諮り、学校再編の必要性が確認されています。また、公共施設等総合管理計画においても学校施設については、「再編成を検討する」旨が示されています。

このため、本計画においては、児童生徒にとって良好な教育環境を確保し、適正規模の学校運営を実現する観点から、学校再編の在り方の検討を行うこととします。

2) 今後の実施計画

小学校と中学校については以下の2つの学校再編案を今後検討します。

現在、町が想定する義務教育学校の施設規模は下表のとおりとなります。

表 14 義務教育学校の施

設規模

	校舎	屋内体育館	計
小学校	3,460	922	4,382
中学校	4,028	1,237	5,265

(1) 再編案1：義務教育学校（鱈ヶ沢学園）（仮称）の新設（西海小学校敷地）

2つの小学校を一度舞戸小学校に集約し、西海小学校の校舎が築後60年を迎えようとしており、老朽化が進んでいることから解体後の跡地に小・中学校機能を賄う校舎棟を新規整備して、義務教育学校（鱈ヶ沢学園）を新設し、小学校と中学校を集約します。

舞戸小学校は築後30年を経っていますが、施設診断の結果も良好であることから、当面は修繕を行わず、鱈ヶ沢中学校については新設整備までの間、大規模改造・長寿命化改修は行わず部位修繕によって安全性を確保するものとし、この際の部位修繕は、施設利用の安全性を確保する観点から、劣化状況調査でC判定だった箇所を中心に、外壁に対する施工に留めて費用縮減を図るものとし、

町が想定する義務教育学校（鱈ヶ沢学園）（仮称）の施設規模は表14の通りとし、学校プールは整備せず鱈ヶ沢町スポーツセンター室内温水プールを活用するものとし、

光熱水費・委託費等の経常的経費を含めた、今後10年間の総額は約43億円（平均約4.3億円/年）となります。

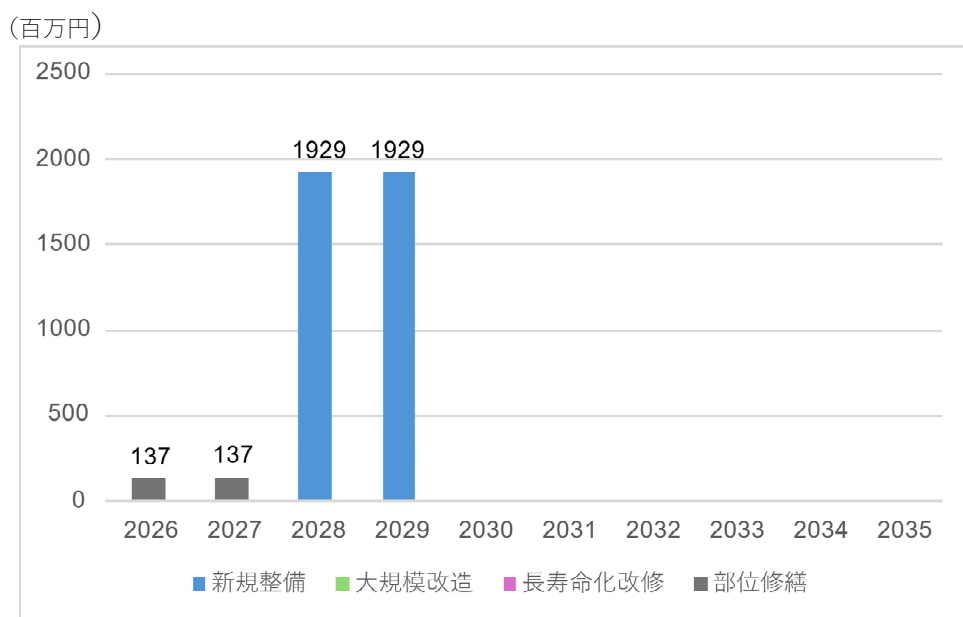


図 21 今後 10 年間の実施計画①

表 15 今後 10 年間の実施計画①

(単位：百万円)

■ 新規整備 ■ 大規模改造 ■ 長寿命化改修 ■ 部位修繕

施設名	建物名	建築年度	築年数	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
				2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
西海小学校	校舎教室棟	1968	57										
	校舎管理教室棟	1969	56										
	校舎教室棟	1970	55										
	体育館	1970	55										
舞戸小学校	校舎町道側	1995	30										
	校舎ハイルス側	1995	30										
	体育館	1996	29										
鵜ヶ沢中学校	校舎北棟	1976	49	52	52								
	校舎中央棟	1976	49										
	校舎南棟	1977	48	33	33								
	校舎南棟	1976	49	12	12								
	校舎技術棟	1977	48										
	体育館	1976	49	39	39								
鵜ヶ沢町立学校給食センター	学校給食センター	1998	27										
	小学校棟	2029	-			692	692						
鵜ヶ沢学園(仮称)	小学校体育館	2029	-			184	184						
	中学校棟	2029	-			806	806						
	中学校体育館	2029	-			247	247						
施設整備費 計				137	137	1929	1929	0	0	0	0	0	0
その他整備費				1	1	1	1	1	1	1	1	1	
維持修繕費													
光熱水費・委託費				19	19	19	19	19	19	19	19	19	
合計				157	157	1949	1949	20	20	20	20	20	

※上記の試算結果には解体費、設計費、施行監理費、消費税は含まない。

(2) 再編案2：義務教育学校（鱒ヶ沢学園）（仮称）の新設（舞戸小学校の活用）

2つの小学校を一度西海小学校に集約し、舞戸小学校の既存校舎を活用して小学校機能を賄い、他に中学校機能を賄う校舎棟を新規整備して、義務教育学校（鱒ヶ沢学園）（仮称）を新設し、小学校と中学校を集約します。

なお、義務教育学校の整備後、旧舞戸小学校の校舎を活用した部分については10年以内に長寿命化改修を行い、30年後に大規模改造を行います。

また、西海小学校および鱒ヶ沢中学校は校舎の老朽化が進行していることから、小・中学校集約までの間は大規模改造・長寿命化改修は行わず部位修繕によって安全性を確保するものとし、この際の部位修繕は、施設利用の安全性を確保する観点から、劣化状況調査でC判定だった箇所を中心に、外壁に対する施工に留めて費用縮減を図るものとし、学校プールは整備せず鱒ヶ沢町スポーツセンター室内温水プールを活用するものとし、

光熱水費・委託費等の経常的経費を含めた、今後10年間の総額は33億円（平均約3.3億円/年）となります。

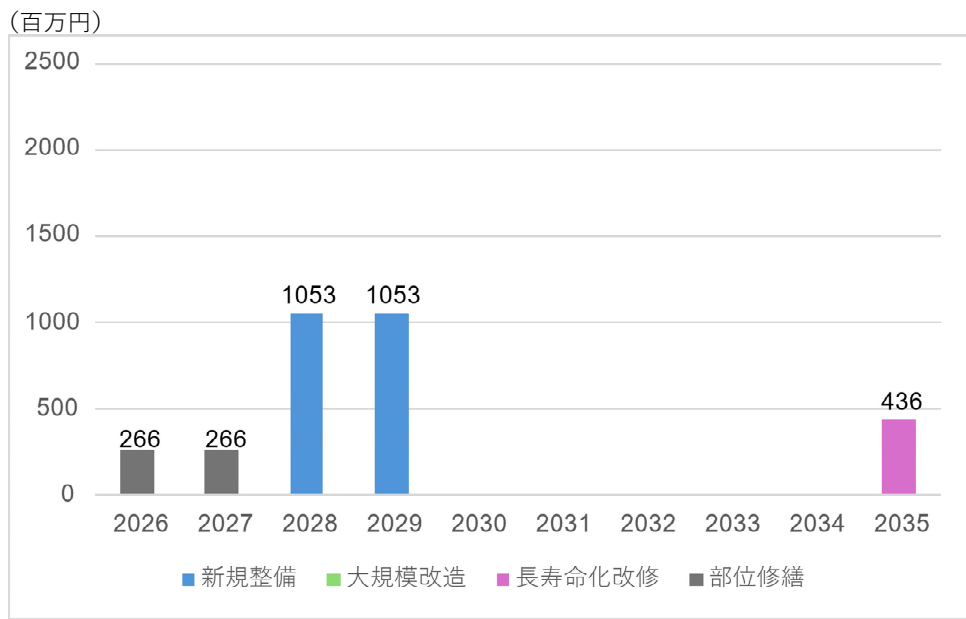


図 22 今後 10 年間の実施計画②

表 16 今後 10 年間の実施計画②

(単位：百万円)

施設名	建物名	建築年度	築年数	年次										
				R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	R17 2035	
西海小学校	校舎教室棟	1968	57	24	24									
	校舎管理教室棟	1969	56	44	44									
	校舎教室棟	1970	55	40	40									
	体育館	1970	55	22	22									
舞戸小学校	校舎町道側	1995	30											
	校舎"ハ"入側	1995	30											
	体育館	1996	29											
鎌ヶ沢中学校	校舎北棟	1976	49	52	52									
	校舎中央棟	1976	49											
	校舎南棟	1977	48	33	33									
	校舎南棟	1976	49	12	12									
	校舎技術棟	1977	48											
	体育館	1976	49	39	39									
	体育館	1972	53											
鎌ヶ沢町立学校給食センター	学校給食センター	1998	27											
鎌ヶ沢学園(仮称)	校舎町道側(旧舞戸小)	1995	30										262	
	校舎"ハ"入側(旧舞戸小)	1995	30										174	
	体育館(旧舞戸小)	1996	29											
	中学校棟(新設)	2029	-			806	806							
	中学校体育館(新設)	2029	-			247	247							
施設整備費 計				266	266	1053	1053	0	0	0	0	0	0	436
その他整備費				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
維持修繕費														
光熱水費・委託費				19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
合計				286	286	1073	1073	20	20	20	20	20	20	455

※上記の試算結果には解体費、設計費、施行監理費、消費税は含まない。

2 今後の課題

鯉ヶ沢町において最も望ましい学校教育環境を実現するために、前記2つの学校再編案を含めた検討を行い、住民や議会に対する説明の充実や合意形成に努める必要があります。

また、用途廃止される学校施設が生じる場合は跡地利用の可能性を探るとともに、迅速な処分を図ることによって、財政負担の軽減を図る必要があります。

表 17 維持管理パターン別の費用比較

(単位：百万円)

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	合計
従来型	1,104	1,363	500	241	241	241	241	241	241	676	5,089
長寿命化型	284	284	284	284	284	284	284	284	284	1,329	3,885
再編案1	157	157	1,949	1,949	20	20	20	20	20	20	4,330
再編案2	286	286	1,073	1,073	20	20	20	20	20	455	3,271

※上記の試算結果には解体費、設計費、施行監理費、消費税は含まない。

第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

1) 情報基盤の整備と活用

公共施設等に関する情報は、公会計管理システムなどとあわせ、施設管理を所管する部署で管理し、各施設の利用状況、現状把握を行います。

2) 推進体制等の整備

部局横断的な情報共有や調整、計画の進捗管理を行うため、公共施設等の適正な管理に向けた庁内の一元的な推進体制を構築します。

3) フォローアップ

維持管理については、長期的な取り組みが必要であるため、本計画の推進においては、PDCAサイクルに基づき、町の上位・関連計画との整合に留意し、計画の見直しを行います。

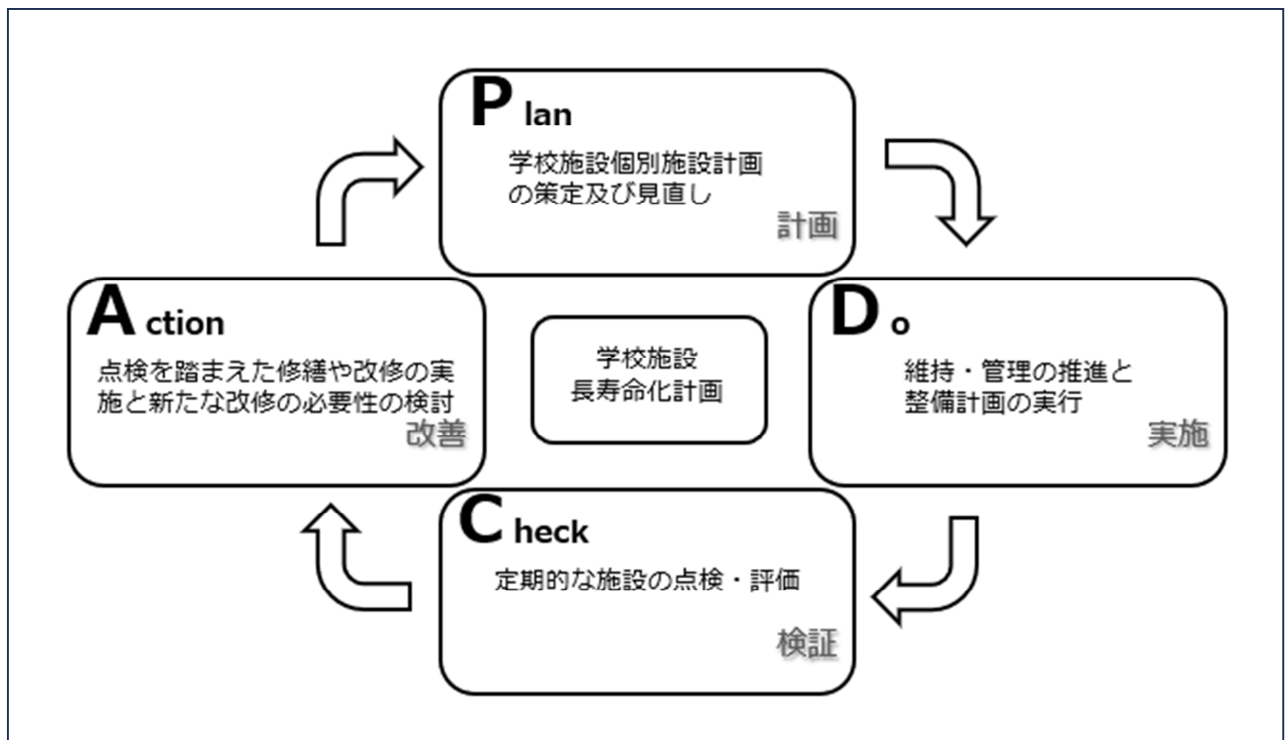


図 23 PDCA サイクル

用語集

長寿命化	建物を将来にわたって長く使い続けるため、耐用年数を伸ばすこと。
従来型管理	建物や機械・電気設備等において不具合が出た箇所のみを事後的に修繕し、建築後 40 年程度で改築するというような維持管理方法
長寿命化型管理	建物の損傷や電気・機械設備等の異常が軽微である段階から、機能・性能の保持・回復を図るための修繕等を予防的に実施し、耐用年数を 80 年程度まで伸ばす維持管理の方法
改築	老朽化により構造上危険な状態にあったり、教育上、著しく不適當な状態にあたりする既存の建物を「建て替える」こと。
長寿命化改修	長寿命化を行なうために、物理的な不具合を直し耐久性を高めることに加え、機能や性能を現代の求められる水準まで引き上げる改修を行うこと。
大規模改造	老朽化の進んだ建物を棟ごとに改修を行うこと
部位修繕	経年劣化した建物の部分を、既存のものと概ね同じ位置に、概ね同じ材料、形状、寸法のものを用いて原状回復を図ること。
構造躯体以外の劣化状況及び健全度	建物を 5 つの部位（屋根・屋上、外壁、内部仕上、電気設備、機械設備）に分類し、4 段階で劣化状況を評価した結果のこと。 また、構造躯体以外の劣化状況を 100 点満点で点数化した評価指標のことを健全度という。

鱒ヶ沢町学校施設個別施設計画

策定 令和8年3月

編集・発行 鱒ヶ沢町 教育委員会

〒038-2792 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町大字舞戸町字鳴戸 321 番地

電話番号 0173-72-2111 (代表)
